

こんな先生
いるよ!

教養教育研究院
北海道・長万部キャンパス教養部
講師
菅原 慶郎 先生



「古文書から歴史を考える 研究と長万部を体感する 学生と『ともに』」

古文書から読み解く歴史の面白さ

歴史学、特に古文書を読み解く研究が専門
とうかがいました。

歴史学（文献史学）が専門で、昔の文書を
解読することにより、当時の生活・文化や
人々の生き方を考えるのが私の研究スタイル
です。とりわけ江戸時代から明治時代に
関心があります。「御家流」と呼ばれる主
に江戸時代の公用文に使われた崩し字の書
体がありますが、この頃には多くの人たち
が読み書きのスキルを身につけたことで、
商家の帳簿や村人の日記も残っており、
様々な角度から当時の実態にせまること
ができます。

私は北海道出身ですが、大学の進学にあ
たり関東で4年間を過ごしました。そこ
ではカルチャーショックを受けながら、と
ても充実した時間を過ごしました。ここ
で地域文化の相違に関心を持ったことが、
歴史を本格的に学ぶきっかけとなりました。
恩師の言葉で全国を旅した

地域文化の個性に気がついた大学時代の思
い出があります。

学部時代に歴史学（日本史・地域史）を教
わった師匠の印象的だった言葉は「貧乏旅
行でも良いから、とにかくあちこちに行っ
て見聞を広げなさい」でした。それを真に
受け、在学中に全国47都道府県をまわって
みようという実行に移したのです。アルバイト
をしては長期休暇に旅行しました。宿は大
学の友達の実家に泊めてもらうことも。
色々な地域を訪れ、「地域とは」を深く考

える機会に恵まれました。こうした経験は、
地域との協働を重視する長万部キャンパス
で教鞭をとることに大きく生かされてい
ます。

長万部という地域での体験を大切に

長万部ではどんなキャンパスライフを体験
できるのでしょうか。

長万部キャンパスでは経営学部国際デザ
イン経営学科の1年生119名（2024年
度）が寄宿生活をしています。

キャンパスは長万部駅から徒歩圏内で、
市街地と隣接する丘の上であり、噴火湾や
羊蹄山などの素晴らしい眺望を楽しめます。
学生寮はオーシャンビューで温泉も引かれ
ており、最高の生活環境だと思います。

このキャンパスでの学習プログラムの大
きな特徴といえる講義が「コ・デザインプ
ロジェクト」です。学生が4〜5人1組で
グループを作り、答えのないテーマにつ
いて町の人たちと協働で考え、解をデザイン
するのです。この講義を中心として交流が
大きく深まった結果、昨年度は町の方々が
お別れの会を企画してくださり、それぞれ
の想い出が詰まった動画を町の方々と学生
たちが送り合うという「素敵なお土産」も
共有されました。まさに、全く新しい地
域・環境で1年間過ごした学生たちの、長
万部ライフの集大成ともいえるものになっ
たと思います。

私はこうした地域と関わる学生たちの
「デザイン」という協働作業に、微力なが
ら、ともに参画していきたいと考えていま
す。

太田正人（ジェイクリエイト）

【写真左】長万部キャンパスから見た虹
【写真中】学部生時代の旅で訪ねた那智の滝（和歌山県那智勝浦町）
【写真右】単著で書き下ろした研究書『近世海産物の生産と流通』

